益城の文化財

木山往還の追分石（おいわけいし）

-広崎-

追分石

県道熊本高森線の広崎変電所から北へ500mほど入ると、旧木山往還（おうかん）と交差します。この道路は明治32年までは木山往還として重要な街道でした。

西南戦争の時に健軍で敗れた薩軍は、この往還を木山方面に退却しました。この付近は広崎の花立（はなたて）といいます。

この往還を西へ100mほど進むと「追分石」（道標）があります。高さ95cm、幅30cmくらいの自然石に、「右 すなとり（砂取）左 ぬやまつ（沼山津）」と刻まれています。

この「追分石」は阿蘇出身の社会事業家である甲斐有雄（かいありお）（明治42年没、1900基におよぶ道標設置の功績により、熊本県近代文化功労者の顕彰を受ける）が設置したもので、これまで府内古閑（ふないこが）花立の路肩土手に一部が埋もれる状態で存在していましたが、この「追分石」は、近世期の木山往還の存在を示す貴重な文化財であるとして、関係者のご配慮によりこの一角を宅地造成した際に元の場所に安置されました。

「追分石」から東へ300mほど進むと「猫伏石（ねこぶくいし）」と呼ばれる巨石があります。「猫伏石」は、加藤清正が熊本城築城の際に豪力で名高い「横手（よこて）の五郎（ごろう）」に命じて運ばせた石垣用の石が残されたものであるという民話があります。

木山往還は益城町木山から熊本市迎町までの約3里（12km）の街道で、人馬の往来も盛んであったそうです。

参考文献

河原三代志著「ましき野史跡さんぽ第4集」

「熊本の風土とこころ第2集　熊本の街道と峠」⑳

（英会話のコーナーは休載します）

俳句

早川宏次　選

雄大な原野に集うワラビ狩り　木山　増岡　伸禧

飯田山ひと日黄砂の中にあり　広崎　一丸　寅三

列島を春の猛嵐うずを巻く　惣領　新居　露子

満開の花が迎える弾正祭　惣領　阪口　基明

廃園の由々しき墓碑や桜樹かげ　下陳　城　陶子

春雷の雨に打たれて桜ちる　惣領　阪口由美子

荒畑も満員御礼なずなかな　木山　山口サツキ

狂句

田上富岳　選

一生もの　よう考えて嫁もらえ　寺迫　吉村　丸正

一生もの　資格取得に損め無か　安永　井藤　吉郎

一生もの　型は古いが捨て難い　木山　増岡　酔粋

一生もの　入学祝いモンブラン　惣領　阪口　基明

一生もの　一に健康二にお金　宮園　永瀬　美波

順繰りた　親も飲ますが子も飲ます　寺迫　吉村　丸正

順繰りた　十八番を聞かそうか　広崎　一丸　寅三

順繰りた　死に目ばかりはそぎゃんたい　安永　井藤　吉郎

順繰りた　逃げ得なんかさせません　宮園　永瀬　美波

順繰りた　姉おしのけてでくるかい　宮園　岩本よごろく

狂句次号の課題「角ん立つ」「あきらめた」

投稿は役場広報係まで。
投稿締切日は毎月15日です（当日必着）。
※数種に投稿される場合は、別にしてお送りください。